

平成29年度 学校自己評価(保護者・教職員)アンケートのまとめ

須坂市立須坂支援学校

保護者アンケートは11月29日に配布し、12月末までに回収しました。教職員アンケートも同時期に実施、回収しました。

2月22日の参観日に保護者説明、3月2日に信州型コミュニティースクール運営委員会説明を行います。

評価：A「そう思う」 B「おおむねそう思う」 C「そうは思っていない」 D「そうは思わない」

	評価の観点	評価	保護者		教職員		アンケート評価の結果 外円:保護者 内円:教職員	課題及び改善策・向上策		
			人数	割合	人数	割合				
1	新たな学校づくりに向けた取組について、学級(部)だよりや「地域通信」等を通じて、保護者や地域の方々に情報が十分に伝わっているでしょうか。また、保護者の思いや願いを受け止めた学校づくりができていますでしょうか。	A	19	63%	<ul style="list-style-type: none"> ・よく伝わっている。 ・学校での様子や活動は、学級だよりで知ることができている。親子給食で食事の様子も知ることができてよかった。 ・写真が見えにくいことがあるので、学校でカラーのものを掲示してほしい。 ・支援学校HPを楽しみにしているのを更新してほしい。 	6	33%	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部が中学部の様子を知ったり、または逆があったり地域の方への発信ができるよう、学校だよりがあるよと思う。 ・支援学校通信を発行し、情報を発信してほしい。 ・部からのおたよりは出されて保護者に情報が伝わったと思いますが、地域通信や須坂小保護者向けおたよりが出されていないので、不十分だと思います。 ・運動会や交流など今年新しい試みがありました。その主旨や内容など、地域通信や須坂小向けのおたよりで知らせていただくとよかったです。 ・「地域通信」が発行されていなかった。今まで気づいていなかった。 ・学校づくりという観点に寄せて、教育内容や行事等も評価すべき。 		「学級・部だより」については、定期的に発行されているため、保護者及び職員の評価は概ね良好である。「学校だより」「地域通信」については、発行回数が少なくなってしまった。「学校だより」については、須坂小の学校だよりと両面で印刷し、須坂小保護者に配付したり、地域に閲覧版で回したりしていく。年間の発行計画を作成し、遺漏なく発行できるようにしたい。「学校づくり」という観点での評価を継続するのであれば、特色ある教育課程等も含め、観点の内容を具体的に見直す必要がある。
		B	11	37%		8	44%			
		C	0	0%		4	22%			
		D	0	0%		0	0%			
		合計	30			18				
2	児童生徒一人一人の人権が守られ、教育的ニーズに応じた授業実践や関わり方ができているでしょうか。	A	22	73%	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの話をよく聞いてくれる。 ・個別の課題などもマンツーマンで指導していただいたり、本人のペースに合わせて活動していただいている。 	5	28%	<ul style="list-style-type: none"> ・「○○さん」づけで呼ぶことについて、気をつけて生活してきた。部会ごとに確認していただけて、意識できたと思う。 ・呼び捨て、ニックネームなど、子どもによって呼称が違ってくることに異和を感じる。また、指示の出し方など、強すぎると感じることもある。自分自身を振り返っていききたい。 		保護者からは、「そう思う」「おおむねそう思う」を合わせて90%以上と、概ね良好な評価をいただいている。人権にかかわる研修の積み重ねや目頃からの子どもとの関わりについて、職員会、部会等で話題としていることが評価されたものと思われる。「人権を守る支援」については、ことばがけや関わり方などが須坂小児童のモデルとなり得ているかといった視点からも、振り返っていききたい。
		B	6	20%		12	67%			
		C	1	3%		1	6%			
		D	0	0%		0	0%			
		合計	30			18				
3	保護者との連携の下、児童生徒の実態(日々の生活・授業支援)に添った「個別の指導計画」が作成され、「個別の指導計画」が有効に活用された支援・指導がなされているでしょうか。	A	23	77%	<ul style="list-style-type: none"> ・熱心に指導されている。 ・本人の克服してほしいところ、伸ばしたいところを丁寧に指導していただいて、成長を感じる。 ・活用された支援・指導である。 ・日常使うことばが少しずつ増えている。自分のしたいことをことばで伝えることができてきている。 	6	33%	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の反省として、計画したことが実践されていなくて、評価の時期にあわてて課題を与えるようなことがあった。 ・C表をいつもさっと取り出せるところに置いたり、挟んだりしておいて、支援の方向の確認→実施→見直しスムーズにいくようにしたい。 ・支援の方向性に迷ったときに、個別の指導計画に立ち返れるツールとしたい。 		個別の指導計画について、保護者からは高い評価をいただいている。保護者と共に検討・作成し、丁寧に振り返りを行いながら、授業改善を行っていること、それが児童生徒の育ちにつながっていることが評価されたものと思われる。教職員の評価からは、作成や見直しの時期だけでなく、個別の指導計画を常に意識していくことの必要性が指摘された。
		B	7	23%		12	67%			
		C	0	0%		0	0%			
		D	0	0%		0	0%			
		合計	30			18				
4	連絡ノート、家庭訪問、懇談会などを通して児童生徒の様子を把握し保護者と連携した教育活動を実践することができているでしょうか。	A	23	77%	<ul style="list-style-type: none"> ・実践されている。 ・親の希望を聞いていただき、取り入れていただいている。 ・その日のことを細かく教えていただき、手厚く指導していただいている。 ・手の掛かる子を見ていただいている申し訳なから、細かい希望を言えないふがいなさがある。 ・常に子どもにとってのベストを一緒に考えてくださり、先を見据えて活動を考えてもらっている。 ・支援会議やOT見学をしていただき、関係者が同じ方向に向かっていくのがありがたい。 	8	44%	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の子どもの様子や保護者の方の心配事など、気になることは相談しながらやってこれた。 ・家の方が担任に対してとても協力して下さることがありがたい。だからこそ、その子の今と将来の幸せのために、何をすべきかを真剣に考えていかなくてはと思う。 		保護者から高い評価をいただいている。保護者の送迎による通学の児童生徒が多いため、顔を合わせて情報交換、連絡ノートでのやりとりなどに満足いただいていると思われる。しかし、「学校に言いたいことを言えない」「親とずれている」と感じているコメントもあるため、より丁寧に保護者の願いを汲み、ご意見をいただく窓口を増やすなどして、これまで以上に気持ちに寄り添う姿勢を大切にしたい。
		B	7	23%		10	56%			
		C	0	0%		0	0%			
		D	0	0%		0	0%			
		合計	30			18				
5	児童生徒一人一人の特性に応じた教材教具の工夫、わかる状況づくり、視覚的な援助などの適切な支援ができていますでしょうか。	A	24	80%	<ul style="list-style-type: none"> ・とてもよくできている。 ・視覚支援をしていただき、本人も安心して理解・行動できている。 ・子どもの特性を理解した関わりである。 ・やる気がでる前向きなことばがけを期待する。 	5	28%	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと工夫した教材づくり、視覚的な援助がしたいと思うが、放課後なかなか時間が見つからないことが多い。 ・自分自身の反省として、わかりやすい教材教具の工夫をさらにしていかなければと思う。 ・プロジェクターのおかげで、手順の説明や活動の振り返り等の視覚支援が充実したものになっている。 		保護者からは、他の項目に比べて高い評価をいただいている。教材教具の工夫や視覚的な援助が、個別の指導計画に基づき、個に応じた支援になっているとの評価である。教職員側からは、さらに工夫した教材づくりを行う必要性や、そのための時間の確保といった課題が挙げられている。本年度の全校研究で行ったように、「授業評価を行い、次時に向けて改善する」という方法で、より一層一人一人が力を発揮できる支援をしていけるようにしたい。
		B	6	20%		12	67%			
		C	0	0%		1	6%			
		D	0	0%		0	0%			
		合計	30			18				
6	複数担任や学校職員がそれぞれの個性や力を発揮して、一人一人の児童生徒について共通理解をして、指導・支援にあたることができているでしょうか。	A	18	60%	<ul style="list-style-type: none"> ・熱心に指導されている。 ・クラスの先生は連携が取れていて、個に応じた指導も共通理解している。 ・半年に一度位支援会議をやっただけ、関係者が共通理解していただけて安心できた。 ・一部の担任について、もう少し理解してほしい。 ・先生によって評価の違いがある。親自身も温度差を感じることも。 	6	33%	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんな事情があるが、担任+支援員が年間通して同じメンバーで支援にあたる体制ではなく、職員も子どももいつも落ち着かなかった。 ・中学部教員補助員の先生とももう少し詳しく生徒理解をし、共通理解のもとに支援にあたるようにしてほしい。 ・クラス担任の日々の相談やC表の検討等、とても大切な時間で、今後も大事にしていきたい。 ・放課後、会議までの時間で、その日の生徒の様子をお互いに自然に伝え合っていることを大事にしたい。 		保護者の評価は概ね良好であるが、Cの回答が見られた。教師によって対応が違うというご意見については、チームで支援にあたっていることを踏まえ、個別の指導計画の作成・検討を経て、意識統一をしていくことで解決していきたい。また、小学部・中学部の系統性を大切にしたい指導ができるよう、これまで以上に部間の連携もとれるようにしていきたい。
		B	10	33%		10	56%			
		C	2	7%		2	11%			
		D	0	0%		0	0%			
		合計	30			18				
意見・要望等	保護者		教職員		評価を踏まえた今後の学校運営の方向					
	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎で学校に行くことがあまりないのだが、連絡帳などから、学校での様子、対応などがよく伝わってくる。 ・子どもたちへの接し方も上手だし、話をよく聞いてくれているし、道徳教育にも熱心でよい。 ・マラソンだけでなく、体幹トレーニングが毎日あるといいなと思う。 ・一人一人の児童を大切に思い、前向きに指導等に取り組んでいただきありがとうございます。校内だけでなく、須坂小との交流や地域社会との関わり等、これからの社会と障がいをもった子どもたちとのあり方を発展させる授業がとてもよい。 ・学校でも家でも落ち着いて生活できているのも、クラスの先生方のあたたかいご指導があつてのことだと感謝している。 ・学校への意見を言うやうに先生が対応し、色々な形で答えを出していただけるのがありがたい。子どもが毎日楽しく学校へ行く姿や帰ってくる姿を見ると安心する。 ・学校で問題行動があったときなどもっと細かな状況がわかるとよい。クールダウンの方法、絵カードの使い方なども家庭でも共有できると助かる。 ・全体でもう少し協力がほしい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域で共に育つために開校した本校にとって、地域向けに情報を発信することは、分教室の頃から大切に行ってきたことなので、地域通信を継続して発行してほしいと思います。ホームページ等も随時更新をしてほしいと思います。 		保護者アンケートの回収率は、100%であった(家庭数30)。昨年度に引き続き回収率が高く、調査結果は全保護者の意見を反映したものであるといえる。児童生徒理解やその指導・支援のあり方、学校運営上の校務分掌の業務分担等については、職員会議において毎回確認をしたり、学期ごとに反省を振り返る方向を模索したりしている。また、「インシデント・プロセスによる事例検討法」「児童生徒理解」「静的弛緩誘導法」等の研修を計画・実施し、専門性を高めるよう努めている。今後も、小学部・中学部の独自性を保ちつつ、部を超えた連携をして一体感のある学校づくりに取り組んでいく。地域の高等部とのつながりも意識しながら、将来的に地域で自立し豊かに生活していけるよう、教育活動を向上させたり、地域への発信を丁寧に行っていく。保護者の皆さまの思いをこれまで以上に教育活動に反映できるように、複数の教職員が相談窓口となったり、担任以外の職員とも懇談できる機会を設定したりしていく。併設する須坂小学校や常盤中学校、居住地校との交流及び共同学習については、本年度の研究結果を踏まえ、行事への参加の仕方を工夫したり、児童生徒の願いや個性に応じたあり方を模索し、より主体的な活動になり、相互理解につながる。					